平成 14 年度　豊かな体験活動推進事業

# 「勤労生産および交流等に関わる体験活動」

京都市立大原中学校

学校・地域のようす

学校のようす(冬)

## 1．学校の概要

① 学校規模

・学級数：３学級

・生徒数：49 名(1 年生 15 名、2 年生 14 名、3 年生 20 名)

・教職員数：15 名

② 学校環境

・京都市の北部、京都市左京区大原に位置し、近くに三千院や寂光院などの有名な寺院があり、地域のおもな産業は観光と漬物の生産（しば漬け)、農業である。

・人口の流出入が少なく、地域のよき伝統が残っており、地域の教育に対する関心が高く、学校に対してたいへん協力的である。

・生徒は落ち着いた学校生活・家庭生活を送っており、生徒指導上の問題行動は少なく、部活動・学校行事などに積極的に取り組んでいる。

③ 学校教育目標

『自ら学ぶ意欲をもち、心豊かにたくましく生きる生徒の育成』

目指すべき生徒像

・自分の生き方や進路について考え、目標に向かって努力する生徒

・一人ひとりが互いの立場や違いを認め合い、共に高めあう生徒

・いろいろな人と積極的に関わり、社会性や道徳性を身につけた生徒

・常に健康と安全に気を配り、生き生きと学校生活を送る生徒

・勤労の意義を理解し、地域や自然を愛する生徒

④ 連絡先

〒 601-1242　京都市左京区大原来迎院町 35 番地

京都市立大原中学校

Tel：(075)744-2004　Fax：(075)744-2079

HP：http://www.edu.city.kyoto.jp./hp/ohara-c/

E-mail：ohara-c@edu.city.kyoto.jp

## ２．体験活動のねらい

・地域を知ることにより、地域を誇りに思い、地域の一員としての自覚を育てる。

・発表会や交流会を通して、コミュニケーション力・表現力などの向上をめざす。

・失敗を克服していく中で、問題解決の能力を育てる。

・体験活動の中で自ら課題を発見し、その課題についての調査・探究を行い、検証していく力を育てるとともに、新たな疑問や課題を見つける態度を育成する。

## ３．全体の活動計画

年間活動計画　（総合的な学習の時間、特別活動等）

【勤労生産と地域との交流にかかわる活動一覧】

| | 栽培活動 | 環境美化活動 | 交流活動 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 4 | | | | |
| 5 | | 大原大掃除・花の植え替え | | |
| 6 | 学校農園での栽培活動 | | | 菊の栽培活動・地域の施設への配布 |
| 7 | 朝市での紫蘇の販売 | 地域の水質調査 | | |
| 9 | | ベンチの錆止め<br>ペンキ塗り | | 敬老会参加<br>(文化部の発表) |
| 10 | 収穫祭 | 花の植え替え | 小学校との合同運動会(伝統行事「八朔(はっさく)踊り」)<br>障害者施設訪問・交流 | |
| 11 | | | 老人ホーム訪問・交流 | |
| 12 | | | | |
| 1 | 活動のまとめ | 活動のまとめ | 活動のまとめ | |
| 2 | 発表会 | | | |
| 3 | | | | |

## ４．活動の内容

### ①　栽培活動

本校にある約500㎡の学校農園を利用して、トウモロコシ・紫蘇・サツマイモ・ほうれん草・大根・ジャガイモを、年間を通して順次栽培している。

収穫した物のうち、大原の特産物である紫蘇を７月の朝市で販売活動をしている。十月にはこれらの収穫物をみんなで料理

作物の栽培活動

する収穫祭を行っている。

朝市での作物販売

菊の栽培活動

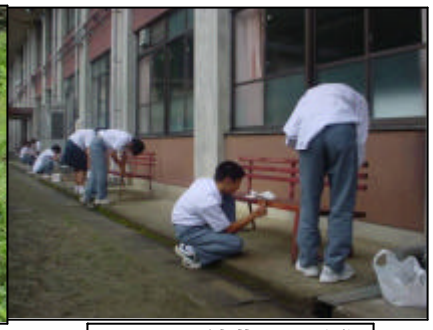
また、生徒が一人一鉢の菊の栽培を行い、10 月には校内品評会を行い上位の菊を一般の品評会に出品している。それぞれの完成した鉢菊は地域の施設に寄贈して交流の役割も果たし、開花が終われば回収して次年度に鉢を再利用している。

② 環境美化活動

大原地区の美化活動として、生徒が企画運営して保護者と共に６月に大原大掃除を行っている。観光ルートのゴミとともに、川の中、林の中に投棄されている大型ゴミについても清掃局に連絡して回収をしている。

また校内の環境美化を生徒に企画させた結果、今年度は校内に設置されているベンチの修理と塗装を行った。

大原大掃除



ベンチの錆落とし活動

③ 交流活動

９月の地域の敬老会に文化部が出演し、音楽の演奏を行っている。

11 月には校区内にある特別養護老人ホームを訪問し、全員で一緒に歌を歌ったり、生徒が作ったお手玉で一緒に遊んだり、車椅子を押して散歩をしたり、話し相手をするなどの交流を深めている。

特別養護老人ホームとの交流活動

このほか、小学校や地域の伝統行事へ積極的に参加している。

④　職場体験活動

第二学年では、３日間の職場体験学習を行い、地域のさまざまな職場で体験活動も行っている。

体験終了後には、発表会を行いそれぞれの職場での体験を発表しあっている。

職場体験(三千院にて)

職場体験(漬け物作り)

## ５．本年度の成果とこれからの課題

本年度の成果

・『地域の一員』としての自覚が高まった。

・学校行事や地域の行事へ積極的に参加するようになった。

・仲間と協力していろいろな活動に取り組み、達成感や存在感が得られている。

・地域の人々に喜ばれており、地域の協力と理解が深められた。

課題と今後の方向性

・限られた時間の中で、より効率よく取り組めるように内容の深化･発展を目指していく。

・一つ一つの取り組みに対して、指導者の手が多く入っている。今後は、生徒に付けたい力や育てたい意識を明確にした上で、もっと生徒が企画･運営する形にしていかなければならない。

・それぞれの体験活動のねらいをより明確にして指導していく必要がある。

・活動の成功を目指すだけではなく、活動にともなう失敗を生かす指導を行う必要がある.。